

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	標茶町アイヌ政策推進事業
2 事業の種類	文化振興事業・地域・産業振興事業・コミュニティ支援事業
3 事業の目的	地域に存するアイヌの歴史や文化等を保存・情報発信し、理解促進と集客による地域の産業振興を活性化させ、次世代への継承や魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>【伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援】</p> <p>①『標茶町文化財マップ』のデジタル化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海道標茶町 ○事業実施場所 標茶町博物館ニタイ・ト ホームページで管理 ○事業の実施期間 交付決定の日～令和4年3月 ○事業の内容と考え方 <p>町内小学生に配布してきた「標茶町文化財マップ」について、本町のアイヌ文化に関する記載を大きく取り入れるとともに、従来の紙ベースによる資料から電子ファイル形式に変換し、ホームページに公開することにより、幅広い利用を図る。</p> <p>【アイヌ文化の体験交流】</p> <p>②アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海道標茶町 ○事業実施場所 標茶町内 ○事業の実施時期 交付決定の日～令和3年11月 ○事業の内容と考え方 <p>地域の人々が本町固有のアイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化継承者を育成するため、以下の事業展開を図る。</p> <p>ア) アイヌ文化に関わる体験事業</p> <p>本町塘路地域では、ムックリに関する伝承や聞き取りが残されており、古くよりムックリが親しまれてきた。本事業では、ムックリ作り体験と演奏体験を行う。本事業を通じアイヌ文化への理解を深めるとともに、ムックリの製作と演奏について興味を持つ人の発掘と後継者育成も進める。</p> <p>イ) ペカンペ（菱の実）採取体験事業</p> <p>塘路湖に生育する菱の実は、塘路アイヌを象徴する食料で古くより親しまれてきた。現在は塘路地域住民の間のみ流通する食材となっているが、地元で長く活動されているレイクサイド塘路と塘路漁業組合の協力を得て、塘路アイヌや塘路地域で食べられていた伝統的な調理法で菱の実を食す。</p> <p>本事業を通じ、塘路湖という特徴的な自然環境との共生とともに栄えた</p>

塘路アイヌへの理解を深め、アイヌ文化の地域性について興味を持ってもらう。

ウ) アイヌ文化に関わる学習支援

本町のアイヌ文化において特徴的なチャシを中心に、遺跡からみたアイヌ文化についての講話を行う。講演はアイヌコタンがありまたチャシも残されている、虹別地区と塘路地区で行う。本事業を通じ知る機会の少ない、アイヌ文化のチャシについて取り上げ、その果たした役割について理解を深める。

(2) 地域・産業振興事業

【アイヌ文化関連のプロモーションの実施】

① 標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業

- 事業実施主体 北海道標茶町
- 事業実施場所 標茶町博物館ニタイ・ト
- 事業の実施期間 交付決定の日～令和4年3月
- 事業の内容と考え方

本町内におけるアイヌ文化の記録と資料保存を担う博物館について、普及活用に根差した整備、インバウンドの方々への対応、及び適切な防犯体制を進めるため、以下の事業を実施することで、幅広い来訪者を呼び込み、本町のアイヌ文化と受け継がれてきた資料、そしてアイヌ民俗資料に根差した伝承について理解を深めてもらう。

ア) 標茶のアイヌ文化映像コンテンツの作成

博物館所蔵の塘路地域におけるアイヌ文化に関わる映像資料をデータ化し、本町のアイヌ文化への理解を目的とした映像コンテンツとして博物館常設展示室他、町内観光施設への活用を図る。

また本町内に伝承される伝説や昔話について、アニメーションの映像作品として製作し、本町のアイヌ文化について幅広い年齢層の方々を対象に理解を深めるコンテンツとして、博物館常設展示室の他、町内観光施設への活用に加え、町内小中学校への貸し出しを行う。

イ) 標茶のアイヌ伝統音楽保存活用

博物館所蔵のアイヌ伝統音楽のカセットテープなどをデジタル音源化し、保存及び今後の普及活用（主に講座講演等にて利活用）を図る。

ウ) 常設展示室「標茶のアイヌ文化」解説パネル多言語化

インバウンドの旅行者への対応として、博物館常設展示室に設置している本町のアイヌ文化や歴史に関する解説パネルの多言語化を行う。

エ) ペカンペ（菱の実）採取用舟製作業

塘路アイヌにおいて伝統的に行われてきた塘路湖のペカンペ採取の際に使用される舟を復元製作し、展示公開するとともに、製作過程を記録保存

	<p>し、地域固有のアイヌ文化を伝承する。</p> <p>オ) 館内防犯設備の設置 アイヌ民俗資料の適切な保存保管のため、防犯設備機器を設置する。</p> <p>②アイヌ文化関連施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海度標茶町 ○事業実施場所 標茶町指定有形文化財 旧塘路駅通所 ○事業の実施期間 交付決定の日～令和4年3月 ○事業の内容と考え方 <p>1886年(明治19年)に漁業番屋として建てられ、後に転用された旧塘路駅通所は、塘路アイヌの内水面漁業を示す唯一の物件であり、駅通所取扱人が残した資料には塘路アイヌに関する資料が多く含まれている。建物は、現在地に移築されたとき、内部間取りが大きく変更されたため本事業にて本来の間取りへ復元するとともに、塘路アイヌの内水面漁業を紹介する資料を展示したアイヌ文化関連施設として活用する。</p> <p>ア) 駅通所間取り変更改修工事 駅通所を移築前の本来の間取り及び取扱人の居住空間を復元するため、今年度は改修に係る実施設計を行う。(令和4年度に改修工事を予定。)</p> <p>イ) 塘路アイヌを中心とした展示造作 明治時代の塘路アイヌに関する記録が残る塘路駅通所取扱人が残した『越善文書』の複製を作成、資料のデジタル化を行い、アイヌ語を含めた多言語に対応した展示造作を行う。</p>
<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項 (アイヌ施策推進法第10条第2項第2号及びアイヌ政策推進交付金事業実施要綱第6条に基づく分類)</p> <p>4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 『標茶町文化財マップ』のデジタル化事業 本町の歴史的なアイヌ文化の理解について、小学生向けに配布、活用を図っていた「標茶町文化財マップ」を、アイヌ文化に関する内容を大きく取り入れ、電子データ化しダウンロードなど町内外への配布も可能とするなど、町のアイヌ文化理解への入り口として位置づけ幅広い活用を図る。 <p>4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイヌ文化に関わる体験伝承事業 古くよりアイヌコタンが所在し、その伝統文化が継承され続けてきた本町のアイヌ文化に関わる一般住民を対象とした体験学習や講演会を、体験伝承事業として位置づけ、継続的に開催する。 <p>4-3 観光の振興その他の産業振興に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業

	<p>標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料を整備するため、以下の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館が所蔵する本町のアイヌ文化に係る映像及び音源資料について、コンテンツとして利活用できる形にし、本町に残る貴重なアイヌ文化の歴史や伝統を理解する重要なツールとして活用する。 ・ 本町内のチャシや送り場などアイヌ文化に関わる重要な地点を「アイヌ文化重要地点」とし映像記録にて保存し、利活用を図る。 ・ 本町のアイヌ文化や歴史について扱っている博物館常設展示室の解説パネル多言語化を行う。 ・ ペカンペ採取のために使用していた特有の採取用舟を復元製作する。 ・ 貴重なアイヌ民俗資料の適切な保存保管のため、防犯設備機器を設置する。 <p>■ アイヌ文化関連施設整備事業</p> <p>旧塘路駅通所を塘路アイヌと和人との漁業を示す施設として修復し、塘路アイヌに関わる文書資料を展示する空間として活用するとともに、当該施設の展示資料を整備する。</p>
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 目標達成に向けた工程</p>	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>①『標茶町文化財マップ』のデジタル化事業</p> <p>本町の特色の一つであるアイヌ文化に係る多数の遺跡について、Web を通し発信することにより、アイヌ文化の魅力と重要性について博物館等を通して学び、理解を深める機会へと繋がる入り口とする事業であり、博物館の Facebook のリーチ人数が増加するほど効果が高まると考えられる。</p> <p>②アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>継続的連続的にアイヌ文化について学ぶ体験事業と学習講座を開催することで、地域の人々が本町固有のアイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化継承者を育成する事業であり、体験事業・学習講座の参加者数が増加するほど効果が高まると考えられる。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>①標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業</p> <p>本町に係るアイヌ文化の貴重な資料を有効活用し、本町のアイヌ文化の適切な保存と発信を行うことで、観光振興によるアイヌの歴史文化への敬意と社会的・経済的地位の向上を図る事業であり、博物館への入館者数が増加するほど効果が高まると考えられる。</p> <p>②アイヌ文化関連施設整備事業</p> <p>旧塘路駅通所を、アイヌ文化関連施設と位置付けることで、文化財的価値を高めると共に、塘路アイヌに関する展示施設として機能させることで、観光振興によるアイヌの歴史文化への敬意と社会的・経済的地位の向上を図る事業であり、</p>

	旧塘路駅通所と近接する標茶町博物館を含め、一帯の利用者数が増加することにより効果が高まると考えられる。
(2) 成果目標、(中間) 目標年度 (成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>①『標茶町文化財マップ』のデジタル化事業 標茶町博物館ニタイ・トの Facebook のリーチ人数 (現状値) 令和2年度 15,392人 (中間目標) 令和5年度 24,000人 (最終目標) 令和7年度 30,000人 成果目標は達成する見込み。</p> <p>②アイヌ文化に関わる体験伝承事業 体験事業・学習講座参加者数 (現状値) 令和2年度 一人 (中間目標) 令和5年度 55人 (最終目標) 令和7年度 65人 成果目標は達成する見込み。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>①標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業</p> <p>②アイヌ文化関連施設整備事業 標茶町博物館ニタイ・トの入館者数 (現状値) 令和2年度 3,547人 (中間目標) 令和5年度 6,000人 (最終目標) 令和7年度 7,000人 成果目標は達成する見込み。</p>
(3) 成果目標の確認方法	博物館の入館者数については、事業実施部局の外部委員会である博物館運営審議委員会により、達成状況を確認・検証し、事業の効果的な実施を目指す。また数値については『標茶町博物館紀要』『標茶町博物館活動報告』にて公表する。また成果目標の確認については、併せて標茶町役場ホームページや標茶町博物館ホームページ内にて閲覧できる状態とする。
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	本町においては町名である標茶(シペツチャ=大川端、大きな川(釧路川)の端)、周辺町域となる塘路(トウロ=沼の処)、虹別(ヌウシュベツ=豊漁の川)、磯分内(イソポウンナイ=兎のいる沢)など、アイヌ語に由来する地名が数多く残されている。釧路地域と、斜里及び標津方面とを結ぶ交通の要衝でもあった標茶町域は、釧路アイヌの勢力圏内に位置し、釧路川中流域に位置する標茶と塘路、西別川上流域に位置する虹別には一定規模のアイヌコタンがあった。これらコタンについての記録は、江戸幕府による第1次直轄期(1799年~1821年)及び第2次直轄期(1855年~)に複数回行われた巡検記録などに見ることができる

が、もっとも詳しい記述を残したのは1858年（安政4年）に行われた松浦武四郎による調査記録『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』である。この中で武四郎は本町内の多くについて記述を残しており、また西別川の水源、シラルトロ沼、塘路湖については絵図を書き残すなど、当時の本町におけるコタンや土地の状況等を詳細に記録へ留めている。

本町の塘路、虹別地域は明治期以降の北海道開拓が進む中でも、伝統的なアイヌ文化における祭事は継続し行われていた。塘路コタンのペカンペカムイノミ（ペカンベ祭りとも呼ばれる）に関しては、昭和初期の記録としてペカンペカムイノミの様子を書き留めた見聞録及びアイヌ文化研究者による学術調査報告があり、虹別コタンで行われたクマ送りについても、同様の学術調査報告書が残されている。特に1990年（平成2年）頃まで行われていたペカンペカムイノミは、植物（菱の実）を対象とするアイヌ文化の中でも特色のある祭事である。

両コタンで使用されていた地域のアイヌ文化に係る伝統的な生活民具、祭具の一部は、標茶町博物館ニタイ・トで保管している他、現在失われてしまった祭具の復元事業を平成11年度～平成22年度にかけて実施しており、事業内で製作された祭具も併せて展示している。

本町のアイヌ文化の特色として、19箇所のチャシ、3箇所の送り場も周知の埋蔵文化財包蔵地として登録している。また「シラルトロ第1チャシ」「同第2チャシ」「マタコタンチャシ」については、平成27年度に国指定史跡となった「釧路川流域チャシ跡群」を構成するチャシ群に含まれており、今後の活用について関係1市4町（標茶町・釧路市・釧路町・弟子屈町）にて現在検討されている。

本町にアイヌ協会はないが、アイヌ文化や歴史に関わる文化財は多数残されており、これらの情報を蓄積し展示や事業等を通して発信する拠点として標茶町博物館ニタイ・トがある。またかつてコタンのあった塘路地区には、アイヌ文化の楽器であるムックリの演奏を中心とした文化サークル「塘路口琴研究会あそう会」があり、本町のアイヌ文化の伝承活動をされてきた方などが在籍していた。博物館や塘路地区公民館とのアイヌ文化普及に係る連携事業も継続的に実施しており、町民のアイヌ文化へ対する意識も高い。また北海道白老町に国立アイヌ民族博物館（ウポポイ）がオープンしたことにより、北海道内のアイヌ文化が国内外に注目されており、北海道内におけるアイヌ文化の発信拠点の一つである釧路市阿寒地域に隣接する本町にも、すでに釧路湿原国立公園における観光拠点として知られている塘路地域を中心に、アイヌ文化を目的とした観光客の増加が見込まれる。

本町を含む釧路地方のローカライズなアイヌ文化に関し、町民や本町を訪れる方々へ積極的な理解への促進を深めるとともに、アイヌ民族にルーツを持つ人々へは、自らのルーツに誇りもち生きられる社会実現を目指す。一方でこれらの実現に際し大きな課題として、本町に関わるアイヌ民俗資料の不足と共に博

	物館の整備強化、文化を受け継ぐための担い手不足が顕著であり、本事業を通じ目的達成を果たしたい。
(2) 施設等の管理運営体制	標茶町博物館ニタイ・ト及び旧塘路駅通所は、標茶町が管理運営している。
(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	アイヌ文化の関連団体である塘路口琴研究会あそう会と、意見交換等を行っている。

8. 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	本年度予算額	前年度予算額	比 較 増 減	
			増	減
国庫補助金	23,240,000	0	23,240,000	0
市町村負担額	5,810,000	0	5,810,000	0
計	29,050,000	0	29,050,000	0

(2) 支出の部

(単位：円)

経 費 区 分	本年度予算額	前年度予算額	比 較 増 減	
			増	減
文化振興事業	491,000	0	491,000	0
報償費	110,000	0	110,000	0
需用費	109,000	0	109,000	0
委託料	272,000	0	272,000	0
地域・産業振興事業	28,559,000	0	28,559,000	0
委託料	28,559,000	0	28,559,000	0
合 計	29,050,000	0	29,056,000	0
報償費	110,000	0	110,000	0
需用費	109,000	0	109,000	0
委託料	28,831,000	0	28,831,000	0